ネムネムの木

カンタは、とっても元気なカラスの男の子です。
おとうさんと　おかあさんと　森に住んでいます。
カンタは外で遊ぶのが大好き。
今日も学校から帰るとすぐに、
「いってきまーす」と
いつもの森へ　でかけました。

すると　いつも遊んでいる大好きな木のそばに、
昨日まで見たことのない木を　みつけました。
その木は幹が太く、どっしりと根を張っています。
左右に伸びた枝から木の葉が青々と繁り、風がふくとさわさわと優しい音がします。
でも　いちばん驚いたことは
枝にも　木の下にも
たくさんのどうぶつたちが休んでいたのです。
いろんな小鳥や　りすや　さる、
キツネや　たぬきや　オオカミもいます。
カンタが見たことのないどうぶつもいました。
しっぽが長くて　おなかにふくろがあって、
そこから　あかちゃんが顔を出しているどうぶつ。
大きくて　鼻が長くて　耳が翼みたいにおおきいどうぶつ。
首がとてもながくて　黄色いどうぶつ。
そして、そんなにもたくさんの動物が集まっているのに、
とても　とても　静かなのでした。
よくみると、どうぶつたちは　みんな　目を閉じています。
眠っているように　見えました。

あまりに静かなので　カンタはすこし　こわくなりました。
それで　「きょうは　かえろうっと。」と　小さな声で　つぶやくと、
おうちへ急いで帰りました。
その晩、眠るときに、カンタは昼間見た木のことを
おかあさんに話してみました。
おかあさんは、じっとカンタの話を聞いていました。
そして、
「カンタ、それは、ネムネムの木よ」
と、しんけんな　かおで　言いました。

「ネムネムの木？　それは、どういう木なの？」
と　カンタは聞きました。
おかあさんがいうには、
「おかあさんは見たことがないけれど、ネムネムの木は、死んでしまった動物たちを、ひと休みさせてくれる木なのだそうよ。どうぶつたちは、痛みも苦しみもなくて、とても安らかな気持ちでそこいるの。そして世界中を旅するの。でも、生きているものは、その木に近づいてはいけないと言われているの。もし、休んでいるどうぶつたちを目覚めさせてしまったら、大変なことになる。生きているどうぶつも、いっしょに連れて行ってしまうときいたわ。だからカンタは、もしまたその木をみても、ぜったいに近づかないでね。おかあさん、カンタが連れていかれてしまったら　とても悲しいわ」
カンタはもうぜったいに近づかないと約束しました。

次の朝、目が覚めると、カンタは　おとうさんから
かなしい知らせを　聞きました。
ばあちゃんが　ゆうべ　病気で死んでしまったのです。
だいすきな　ばあちゃんに　もう会えないとわかって
カンタは泣きました。
おとうさんも　おかあさんも　泣いていました。
そのとき　カンタは　きのう見た木のことを思い出しました。
おかあさんがはなしてくれた　ネムネムの木です。
まだ　ばあちゃんは　あそこにいるかもしれない。
カンタは　そっと家を抜けだして　あの木のあったところへむかいました。

あった！
ネムネムの木は　昨日と同じばしょにありました。
たくさんのどうぶつたちが　眼を閉じてそこにいました。
カンタは近づきすぎないようにして　となりの木から　ばあちゃんをさがしました。
（ばあちゃん・・・どこ・・・？）
いっしょうけんめい　さがしていくと、
枝のまんなかへんに、ばあちゃんをみつけました。
カンタは　思わず　ばあちゃん！と叫びそうになりましたが、
おかあさんの話を思い出しました。
もし、ほかのどうぶつたちを目覚めさせてしまったら大変です。
じっとがまんして、ばあちゃんに心のなかでいいました。
（ばあちゃん、だいすきなばあちゃん、もう痛くないんだね。苦しくないんだね。いままで　たくさんあそんでくれてありがとう。さようなら。）

それからカンタは　急いでおうちに帰りました。
おとうさんとおかあさんが　心配して　おうちの外で待っていました。
カンタはおかあさんにぎゅっと　だきつきました。
涙をみられたくなかったからです。

その日の夜、夢にばあちゃんがあらわれました。
（カンタ、今日は　あいにきてくれてありがとうよ。おとうさんやおかあさんの言う事をよくきいて、おおきくなるんだよ。ばあちゃんは、これからあの木でせかいじゅうを旅するんだ。でも、ずっとカンタのことを　みまもっているよ。さようなら。）
夢のなかのばあちゃんは、にこにこわらって、手をふってくれました。

次の朝、早起きしたカンタは、おとうさんにも　おかあさんにもないしょで
またネムネムの木のところへ行ってみました。
ところが
もう、そこには、ネムネムの木は　ありませんでした。
たくさんのどうぶつたちも　もちろん　姿を消していました。

ばあちゃんは今ごろ　ネムネムの木に乗って　たくさんのどうぶつたちと
せかいじゅうを　旅しているのかもしれません。
死んでしまったどうぶつたちの
痛みも苦しみもとりのぞいてくれる　ネムネムの木。
病気でいつもつらそうだったばあちゃんは　夢のなかで　ニコニコわらっていたっけ。
カンタはもう誰にも　ネムネムの木のことを　話しませんでした。
でも　森へ遊びに行くといつも
あの静かな静かな　ネムネムの木のことを　思い出すのでした。

ネムネムの木

http://p.booklog.jp/book/25724

著者 : chilny
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/chilny/profile

発行所 : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/25724

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/25724